

御殿場

# 十字の園

(題字 鈴木生三)

2012  
No.199号

秋

発行/総合福祉施設  
御殿場十字の園  
施設長 宮島克利  
〒412-0023 御殿場市深沢1465の1  
TEL 0550-83-1999  
FAX 0550-82-5189  
<http://www.jyuji.ne.jp>  
e-mail:info@g.jyuji.or.jp

印刷/岳麓印刷株式会社

〔聖句〕喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい(ローマ12:15)



『秋のドライブ外出 山梨県富士湧水の里水族館にて』

イルド

理事長 平井 章

誕生日の七月初めに介護保険証が届いた。六五歳経験者からその話を聞いていたが、いよいよ私も高齢者の仲間入りだ。六五歳から一号被保険者になり「前期高齢者」である。

地区の依頼で「一緒に考えよう 高齢人の生き方」いよいよ私も六五歳「前期高齢者」と題して講演をした。五五歳に孫が生まれて爺爺(ジージ)と呼ばれ、「船頭さん」の歌詞から今年六〇の「お爺さん」と納得し、六五の今年は、介護保険証が届いて「高齢者」を実感している。まだまだ「若い」と思っている。体のあちこちに綻びが出てくる。目から始まって、髪の毛、歯、耳、肌艶にその兆候がはつきりと出てきた。

テレビを見ながら居眠りし、テレビを消されて「寝てない」と声を発する。青年時代の歌謡曲が流れていると知らぬ間に歌っている。昔の親父の姿を映している自分の姿に、ほくそ笑みながら、高齢人(こうれいじん)の実態がある。

## ロビーとくさくさ

御殿場十字の園施設長 宮島 克利

十字の園の法人パンフレットには、一九六一年に記された施設の設立趣旨が次のように掲載されています。

『ややもすると光明を失いがちな病弱者もキリストの復活の信仰に接することにより、明るく生き甲斐を感じる日々の楽しみを楽しく讚美しつつおこなっております。健康者も自己の生来保持する機能を生かし自発的に山仕事に、畑の整地に、思い思い工夫をこらして生活を楽しんでおります。従つて、入園後は皆非常に若返り、老化現象も薄らぎ全身の機能が回復し、社会復帰をさえ考えるほどです。しかし、私たちの目標とするホームは日ごとに生き生き生活する所であり、生存するだけであつてはいけないと思ひます。』とあります。今から五〇年以上前に記されたものです。改めて、安心や安全ということだけを保証するのではなく、施設とは「日ごとに生き生き

生活する所であつて」と明記し、当初から目指していたことに、深く感銘を覚えます。

前号にも書かせていただいたように、今年度から国際医療福祉大学大学院の竹内孝仁教授を講師とされた「介護力向上講習会」に参加し、自立支援介護(科学的介護)に取り組んでおります。介護職が中心となった自立支援委員会やそれをサポートする多職種や役職者で構成する自立支援サポート委員会を組織し、具体的な議論を重ねながら継続的、組織的に進めていきます。まだ半年程度の取組みですが、トイレで排泄される方が増えてきた。ミキサー食やキザミ食であった方が常食を召し上がれるようになった。目を覚ましている時間や会話がが増えてきた。など職員からうれしい報告が次々あります。如何に水分を摂取していただけるか。寒天ゼリーなどを作り、嗜好を把握し、水分の種

## 六年目を迎えました

地域包括支援センター主任 杉山 克代

平成十八年四月から御殿場市より委託を受けて地域包括支援センターをスタートさせ今年で六年目を迎えます。開所当時は三人体制でしたが今は四人で頑張っています。

地域包括支援センターを簡単に説明すると、高齢者のみなさんが住み慣れた地域でその人らしい生活を続けていくために、介護・福祉・保険・医療等多方面からの支援を受けることが出来るようお手伝いをさせていただいている事業所です。

事務所は旧国道二四六号線沿いにあり地域の方が気軽に相談に寄れるようになっていきます。総合相談の件数も増えて平成十九年には

三七三六件が、二十三年には六七八六件、二十四年九月現在ではすでに三〇二二件となっています。

平成二十一年からは介護予防サポーター養成講座を開講して二十七名のサポーターさんを養成し地域で高齢者を支える仕組みを作り出しました。サポーターさんは平成二十二年からの介護予防「おたつしや教室」に協力してくれています。この「おたつしや教室」は一般高齢者で閉じこもり気味・ちよつと物忘れがある方を対象に十二名、十五名が一回二時間を二十回コースで体操・ゲーム・和太鼓を叩いてリズムをとり、おやつ作りや散歩・作

品作りの回もあります。始めは自信がなく控えめな方もだんだんと笑顔も多く見られ大きな声も出るようになってきて「一週間が待ち遠しいよ」という言葉にサポーターさん共々喜ぶ瞬間です。センターには日々多くの相談があります。地域の皆さんがより暮らしやすくなるようベストなチームワークで対応していきます。



類を豊富にしたり、水分摂取の時間を見直し、回数を増やしたりなど試行錯誤しながら取り組んでいます。下剤をやるめ自然な排泄へ、オムツ交換からトイレ介助へ、車いすから椅子へ、ミキサー食などから常食へなど、職員は利用者さんのよりよい姿をイメージし、様々な取り組みを行っています。先日、法人の各施設が集まる十字の園大会で、介護副主任の高木さんがこうした取り組みを通して、「その人の『生きる』を支えるために、その人を取り巻く人々が、その人に必要な事を謙虚に学び知り、考え、悩み、実際に提供していき、最大限の努力をすることが大切ではないかと思いました。」と発表されました。まさに私も同じ思いであります。

「出来ること、したいこと」に着目し、わくわくいきいき活動を楽しめるよう願って始めました。昨年七月から趣味的な活動を中心に継続的に取り組み、今は室内での活動に留まらず、散歩を兼ねた外出や他職種の職員やボランティアさんも参画され、活動が広がってきております。去る七月二六日に開催された静岡県高齢者福祉研究大会において、中心となった二人が研究発表され、見事優秀賞に選ばれたことは、今後の活動の励みにもなりました。



「希望を創る、ユニットを超えた『いきいきクラブ』」

私たちの施設は「日ごとに生き生き生活する所」を目指していくこと、これからも職員一人一人が、学び、そして具体的な議論を重ねながら取り組んでいきたいと思っております。



二〇一二年十月二十五日(二十六日)第十七回十字の園大会が御殿場高原ビルにて行われました。今回の十字の園大会は主題が「創立の精神(こころ)から新たな福祉にチャレンジ」であり、テーマは「生きる希望を作る」自立支援ケアとのことで主に講演や各施設からの発表がなされました。

基調講演はルーテル学院大学学長市川一宏氏を講師として「社会福祉の動向とキリスト教社会福祉への期待」より「おめでとー」で始まり「ありがとう」で終わる人生をテーマに講演されました。最近の社会問題に目を向け、社会福祉の変化、キリスト教の福祉の原点を様々な働きから学び、被災地の復興は私たちの未来である。という項目で話され、この子らに世の光をではなくこの子らを世の光にという知的障害者の福祉実践に取り組んだ糸賀一雄先生の言葉から特に私は「高齢者を世の光に」という視点に立っていると学びました。

御殿場からは今年度取り組んでいる介護力向上講習会の伝達や実践発表をしました。各施設からも非常に力が入った発表がなされ、施設同士にも良い刺激の時があつたと思えます。来年度のテーマは絆で会場は伊東となっておりまして楽しんで御殿場でも取り組んでいきたいです。



## 第十七回十字の園大会に参加して

三階寮棟 副主任 高木 直也

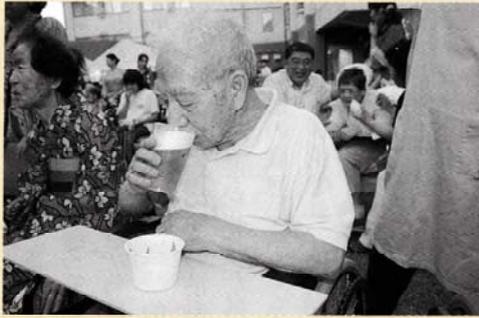
## 夕涼み会

三階 土屋喜史



八月二日、今年の夕涼み会は天候も良く、中庭にて行う事が出来ました。限られた時間の中ではありましたが利用者の皆さん、御家族、それぞれ一年に一度の夕涼み会をお楽しみ頂けたのではないかと思います。盆踊りに浴衣を着て参加される方や、のんびり会話を楽しまれていた方もいらっしゃいました。花火や盆踊りや模擬店、夏らしさを感じていただけましたか？皆さんの笑顔に包まれて行う事ができ、本当に良かったです。

少し気が早いですが、来年も天気良く外で行うことができ、皆さんの笑顔であふれるくらいの会になることを信じて心待ちにしています。ありがとうございました。



## 園遊会

三階 内村一俊



九月十五日。今年も園遊会は天候に恵まれ、お日様の下で皆さんに楽しんでいただきました。午前中は式典が執り行われ、施設に住まう皆さん、そして多くのご家族にお越しいただき、ご長寿の方の弥栄をお祝いしました。午前中の式典の最後には池谷香奈子様にはフラメンコの音楽と踊りを披露していただきました。

午後はボランティアの皆様のお力を借り、多くのイベントを催しました。光寿会の皆様には美味しい煎茶を堪能させていただきました。山本浩子様にはプロの歌唱を聴かせていただきました。園遊会委員の皆さんによるゲームや演劇、ケアハウス食堂ではカラオケ大会と楽しんでいただけました。園遊会委員の皆さんは九月の中旬ではありましたが季節はまだ夏。皆さんの健康状態には細心の注意を払っておりましたが、それも取り越し苦労で済みました。

準備の段階から色々和不十分な点があったかと思いますが、園遊会を楽しんで頂けたのではないかと思います。どうもありがとうございました。



## ケアハウス

### 御殿場アドナイ館

ケアハウス 宇佐見昌彦

【健康体操】やっています

今年の六月から水曜日午前二階の集會室を使つての『健康』を保つことにチヨットは役に立つだろう『体操』を再開しています。心と体のリラックスのための雑談を交えながら、音楽を聞くだけで身体が自然と動くラジオ体操第一と頭の天辺から足の先まで（チト大袈裟ですが）肩こり解消や関節を柔らかくしたり、転倒の予防等を主にちよび汗をかき、息が上がる程度の運動を心掛けています。

今年は暑さがことのほか厳しく、梅雨のあたりから早口言葉を交えたりと、身体に負担が掛からない配慮と脱水含め熱中症の予防に注意をいたしました。暑さが峠を越えたあたりから運動の回数（複数回）を同様に織り交ぜ、毎回の笑い絶えぬ時間を過ごしていただいています。



「ボランテア紹介」

「聞いていただく喜び」を  
ボランテアに

ボランテア 山本浩子



私が歌と共に歩き始めたのは一九七三年の事。「スター誕生」というテレビ番組からでした。二年後にメジャーデビューを果たし歌手という職業につきました。デビュー曲から三曲目は、スイーツ三部作・お菓子三部作と呼ばれ三番目の曲はカルビーの「おさつスナック」のCMソングに使っていただきました。当時の私の名は「目黒ひとみ」。

Wikipediaで検索をしていただくと詳細が出てきます。



一九七九年。お客様の息遣いが聞こえ、一人一人の顔が見え、最良の質が求められる、それに応えていく切実な世界でお客様に育てていただきました。

その経験を元に『歌』という世界で私を育てていただいたお礼を皆さんに感謝をもって、『歌う喜び』を「聞いていただく喜び」として、少しでもお返しできればと思えばいいと思います。

「どら焼きパーティー」

シヨートステイ 前田 理沙



先日、コスモスでおやつの時間にどら焼きパーティーを行いました。卵を割ったり、ホットプレートに生地を乗せる作業も利用者さんが手際よくやって下さり、ホールいっぱい甘い匂いが広がりました。

焼きあがった生地に挟む具は、あんこ・生クリーム・バター・いちごジャム等を用意し、各々好きなものを挟んで頂きました。出来立てのどら焼きはとても好評で「たまにはこんなおやつもいいね。」「またやってね。」と皆さん大変喜んで下さいました。

ユニットイベント

「秋刀魚」

くろっちょ 岩田 彩葉



くろっちょでは毎月、季節に合わせた食のイベントを行っています。

九月には毎年恒例、炭火で秋刀魚を焼き、利用者さんと一緒に秋の味覚を楽しみました。他にも芋煮会を行い、利用者さんにも調理に参加して頂きました。

自分達で協力し合って作る食事はやっぱりいつもより美味しく感じ、皆さん笑顔で食事をされていました。

これからもくろっちょで、利用者さんと一緒に楽しめる行事を行っていきたいと思います。

献金下さった方々

敬称は略させていただきます

6月分

松永美知子、村松和子、鈴木英之、勝俣喜朗

7月分

石渡理子、伊勢田きぬ、中島善子、ロッキーマイク

8月分

大野原建設工業、井上あい子、麻生邦雄、山本淳子、日吉弘志、小宮山年男、室伏キヨ、東山青年団、深沢青年団、鮎沢青年団、市婦連福祉グループ、鈴木艶子、西岡正信、山崎れい子、匿名、村上美恵子、富士社会教育センター、小松保

協力ボランティア

敬称は略させていただきます

6月

厚生年金婦人会、深沢婦人会、みくりや友の会、レインボーハート、市野はつ、しようえい幼稚園、伊藤洋子、高橋文夫、アドナイ館、不二聖心中学生、AKI美容室、松尾貴臣、資生堂リハビリメイク、なでしこ会、中里京子、小林成一、勝又町子、山本弘子、印野はさまの会、ピュティサロン山田、ナカノ美容室、不二聖心母の会、東小學校六年生、川波俊昭、御殿場教会、隆生会、玉穂婦人会、菅原幸和、赤十字奉仕団、太極拳カツマタ、(株)コスモロール、市婦連福祉グループ、芹澤菊枝、関根保子、高橋浩子、渡辺弘子、中垣内紀子、鈴の会、若葉会、小泉志保、池谷知子、重野美恵子、菅原幸和

7月

みくりや友の会、語り手の会

御殿場十字の園へのご寄付

6月分	4件	1,306,000円
7月分	4件	45,000円
8月分	19件	220,864円

6~8月分  
累計19件 1,571,864円

ご献金、ご献品心より  
感謝申し上げます。

郵便振替口座  
口座番号 00870-9-190162  
口座名称  
社会福祉法人十字の園  
御殿場十字の園

ご連絡下されば振替用紙を  
お送りいたします。

千の風、春風一路、芹澤菊枝、高橋文夫、厚生年金婦人会、不二聖心母の会、玉穂婦人会、AKI美容室、深沢大正琴、市野はつ、眞宝会、中垣内紀子、なでしこ会、東山婦人会、アドナイ館、東小學校、ピュティサロン山田、ナカノ美容室、赤十字奉仕団、御殿場教会、斉藤淑子、菅原幸和、琴音会、鈴の会、山本浩子、伊藤洋子、渡辺弘子、勝又町子、高橋浩子、神保久美子、関根保子、市婦連福祉グループ、隆生会、小泉志保、池谷知子、重野美恵子

8月

なでしこ会、市婦連福祉グループ、みくりや友の会、たかねかしわ会、東山婦人会、深沢婦人会、東山青年団、鮎沢青年団、深沢青年団、厚生年金、レインボーハート、印野はさまの会、玉穂婦人会、伊藤洋子、アドナイ館、AKI美容室、市野はつ、赤十字奉仕団、隆生会、若葉会、袴塚喜代美、御殿場民謡グループ、鈴の会、弥生会、関根保子、富士社会教育センター、神保久美子、渡辺弘子、芹澤菊枝、高橋浩子、御殿場中学、菅原幸和、池谷知子、重野美恵子、井沼千代

芋ほり

◆ひまわり

岩下史美

八月、ひまわりユニットのボランティアではさつまいもの蔓が成長をはじめました。利用者のさんの毎日の水やりのおかげで、それぞれ2、3m位の蔓に大きな葉、土が見えなくなる程でした。

暑さも落ち着き、いよいよ収穫です！ところが、蔓を引っ張るも、肝心のさつまいもはついてこず…。プランター替わりの衣装ケースを手で掘り返すと、掌におさまる細々としたさつまいも達が。皆で食べられる量がなく、たくさん伸びてくれた蔓を甘辛く調理し、囃かに秋を味わいながら、利用者、職員共に来年のリベンジを誓いました。



◆さつまいも

岩田彩菜

春に植えたサツマイモが収穫できました。長い暑さで葉物は元気がありませんでしたが、芋は程良く育ってくれました。

あとがき

一九六五年の十一月、『時をかける少女』が連載を始めました。この作品は原作者筒井康隆を作家として確立させたのみならず、日本においてまだ認知度の低いハイブリッターを一般に知らしめ、シリーズ作品を除き映画化が四回、日本で最も映像化された作品となっています。「月日は百代の過客にして…」と芭蕉の言葉にあるように『時』はうつろいゆくもの。だから今が貴重と言えます。「今という時」を機関誌に載せてお手元。

(やまもと)



た。「芋と秋刀魚は炭火でなくちゃ」の声で、さつまいもを燻して網を置きホイールでくるんだ芋を乗せて焼き始めます。焼き上がると湯気と共に甘い香りが広がり、あちこちから「なあに？やさいも？」と鼻の利く人たちが顔を出します。収穫のお祝いには、皆に嬉しいほどのお腹の膨らみと美味しい笑顔をもたらし、ます。